

ボローニャ大学交換留学月例報告(12 月分)

文化政策学部 国際文化学科 3 年 恒枝碧

Buongiorno! 国際文化学科 3 年の恒枝碧です。12 月のボローニャはクリスマス色で染まり、街が華やかになる一方でクリスマスバカンスに入ると学生の多いボローニャは皆実家に帰りとても静かになりました。これまで見てきたボローニャの街が夢だったのではないかと思うほど本当に人が少ないです。学生が格段に減ったので、街を歩いていると観光客か家族連れの割合が多く、街の年齢層が上がったように思います。

【今季の授業の終わり】

12 月の初旬に語学学校の筆記試験と口頭試験がありました。筆記試験は文章読解や文法、答えに対する質問を考える問題、リスニング問題などあり、2 ヶ月間の授業で扱った要点が全て出ました。口頭試験は先生と 1 対 1 で会話をする試験で、堅苦しい試験ではなく先生から聞かれる質問に対して答えながら雑談を続ける試験でした。2 ヶ月間の語学学校生活でイタリア語の語学力だけではなく、欧州の学生たちの授業態度や姿勢を生で感じ刺激を受けながら学ぶことができたことがとても貴重な経験になりました。

今季の語学学校は終わってしまったのでこれからは独学や友達と話すことでイタリア語力を維持していく必要があります。日本語の授業はクリスマス前まであり、彼らと共に過ごすことによってリスニング力は上がりますが、リスニングをするのに精一杯になります。なぜなら、会話内容が飛びすぎて今なんの話題で盛り上がっているのか全くわからないことがあるからです。ある日友人の一人に何を話していたか聞くと、「ダンテの話から紫式部の話に飛んで、そこからさっき見せた動画(流行っている動画を見せてもらっていました)の話になって、課題の話もしていたと思うよ。話が飛びすぎて私もよく覚えてないけど、イタリア人でもあの会話は難しいよ。」と言われ、想像以上に話が飛んでいたことに加え、ネイティブにも難しい会話なら私がわからなくて当たり前だと少し安心しました。話題がコロコロ変わることをイタリア語で「Salto pindarico」というらしく、この言葉を使える状況になるまでリスニング力とスピーキング力を高めたいです。

【フィレンツェ・ローマ観光】

クリスマスバカンスの時期に日本から友人が 1 週間遊びに来てくれたので、フィレンツェとローマに行ってきました。私にとっても初めてのフィレンツェとローマだったのでとても充実した旅行になりました。私がイタリアに来た目的のひとつとしてルネサンス期の芸術を生で見るのと古代ローマ遺跡を実際に見ることがあり、今回その目的を少し達成できた機会でした。フィレンツェでは街のシンボルである大聖堂

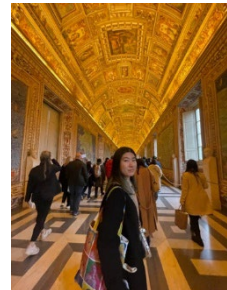
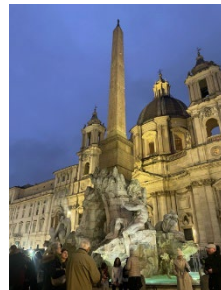
(ドゥオーモ)をはじ

め、ボッティチェリの「ヴィーナス誕生」「春」、ミケランジェロやレオナルド・ダ・ヴィンチ、ラファエロなどルネサンス期の有名作品を含む多くの作品であふれるウフィツィ美術館、ヴェッキオ橋、ピッティ宮とボーボリ庭園などを訪れました。14・15 世紀に栄華を誇った街の圧倒的財力と芸術活動への注力が街を歩くだけで感じられ、その街並みは美しく、偉大で、華麗で織



細な部分もあるにも関わらず堂々と鎮座しているさまに心を吸い込まれるような感覚になりました。

一方でローマはフィレンツェとは全く異なる意味で圧倒される街です。ひとつひとつの遺跡や建造物の規模が桁違いに大きく、あまりの大きさに口が開きっぱなしになってしまいます。古代ローマ時代の繁栄を肌で感じるとともに、その遺跡たちと現代の生活が入り混じる光景におもしろみがあります。なので、ローマを表す言葉として私的には「混沌」という言葉がしっくりきます。歴史的価値の高い建造物、区域、街並みから、現代社会の地下鉄、人々、ブランド品が並ぶエリア、そして落ち着いた街並みもあり、はたまたバチカン市国の教皇の権力の大きさを感じる美術館と市内の神聖さにはなんとも言えない緊張感があり、全てが混じりあってローマが構成されています。



そんなローマ観光では、歩いて歩いて歩き続けることが条件となってきます。というのも、イタリア人の友人から「ローマのバスは機能していないから乗るのはやめたほうがいい」という助言を受け、地下鉄を何度か利用したのですが、どの駅も中心部から近いわけではないので結局歩くことになります。タクシーに乗ろうとしてタクシー乗り場に行っても、車はあっても中の運転手さんがどこを探しても見つからないのです。1度たまたま到着したタクシーを捕まえることはできましたが、本当にたまたまです。ローマの街の地下にはなにかしらの遺跡が埋まっていると思うので東京のように地下鉄を縦横無尽に通すことはできないですが、せめてタクシーのおじさんはタクシーの中にいてほしいと切に願います。



【一味違う年越し】

友人も日本に帰り、年末ムード一色になる、というわけでもなく気が付いたら31日になっていました。こちらの友人たちは実家に帰っているか年明けの試験に向けて勉強しているかのどちらかだったので、特にやることがなくなった年末は旅行の疲れを取りつつ自宅で勉強していました。そんな日常から一変、31日と元旦のボローニャはお祭り騒ぎです。イタリアでは年越しは友人と過ごすのが一般的であり、私も年越しのときだけボローニャに帰ってきていた友人に誘われホームパーティーをしました。外では爆竹が絶えず鳴り響く中、31日の23時59分までテーブルゲームをし、年越しの瞬間に発砲ワインを開け、広場であがる花火をバルコニーから見たあとすぐにテーブルゲームを再開するという慌ただしい年越しをしました。家に帰る途中に街の中心を通りかかると広場全体はクラブになり、全員がテンション爆上げな新年を体験しました。

1月に入ってもまだ授業は始まらないので自分でできる精一杯の努力と友人との交流を交えながら充実したものにしていきたいです。